

平成 29 年度特別選抜（推薦入学）入学者選抜試験問題
小論文（出題意図）
＜医学部看護学科＞

問題 1

著者は、独力で生きるのではなく支え合って生きることが本当の「自立」であり、「自立」の従来の考え方を見直す必要があると、次のように論じている。

我々の社会は、「自立」を、生きるのに必要な多くのものを意のままにできることとして了解し、とことん「する」の論理で成り立ってきた。しかし、加齢や障害が誰もが経験するできごとであることから目を背けることはできない。加齢や障害による「できない」ことを「できる」ようにすることはできない。それよりも、環境を整えることによって「できない」ことでなくしていくことの方が重要である。

「自立」とは、独力で生きることではなく、他人と支え合って生きることである。他人に依存していないことではなく、他人との相互依存のネットワークをいつでも使える用意ができていることをこそ意味する。つまり、何かを意のままにするという強迫から降りることを自然に受け入れるようになるのが、本当の「自立」ではないか。

問 1：上記のような著者の主張についての文脈の読解能力と、それを限られた文字数で適切にまとめる文章表現能力を問う。

問 2：独力で生きるのではなく支え合って生きることが本当の「自立」であると論じる著者の主張を、自己の身近な状況に置き換えて考えることのできる想像力と、自己の考えを具体的・論理的に記述する論理構成能力および文章表現能力を問う。

問題 2

表1は、都道府県別の救急自動車出動件数と傷病程度別の比率を示したもので、大阪、東京の出動件数が多く、志望者や重傷者の割合が低いのに対し、北陸、東北の各県では、出動数が少ないが志望者や重傷者の割合が高いことが示されている。

図2は、通報から救急隊員による心肺蘇生開始までの時間区分別の1か月後の正存率と社会復帰率を示したもので、10分以上を要すると生存率は9.2%に、社会復帰率は5.4%に低下することが示されている。

表2は、都道府県別の救急自動車到着までの時間を示したもので、東京が最も長い10.9分、次いで宮崎、島根が9分上を要しているのに対し、富山、京都、福井等は7分程度であることが示されている。

問1：これらの数量データを読み取る読解力、および、読解した内容を限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。

問2：等、図表のデータの背景を推論する社会的関心や問題意識、またそれの下に救急医療の課題と対策について論じる力、および、それを限られた文字数でまとめる文章表現能力を問う。